



探究科の1年次生が、夏休みディスカバリープロジェクトの成果を発表！

探究科

探究科の1年次生は、8月3日(木)と7日(月)に、4つのグループに分かれて夏休みディスカバリープロジェクトに参加しました。それぞれのグループが訪問した施設等で学んだ成果をクラスのメンバー全員で共有するため、10月11日(水)に各クラスで発表会を行いました。発表会でそれぞれのグループが設定したテーマは、表1・2の通りです。

1年5組のA1班は、綾羅木郷遺跡からクジラの骨で作ったアワビおこしが出土したことから、昔から下関の地で捕鯨が行われていたのではないかと考え、発表しました。また、豊田ホテルの里ミュージアムで、昆虫の特徴について学んだB2班は、近年注目されている昆虫食のレシピをまとめて発表し、昆虫食の普及に向けたアイデアを披露しました。

1年6組のA3班は、土井ヶ浜遺跡で出土した14本も矢じりが刺さった人骨の様子から、この人が生前はどのような身分の人で何をしていたのか、根拠を示しながら発表しました。また、D4班は、ひびきのキャンパスで自動運転で動くバスが試運転されていることについて、このバスを運用するときのメリットやデメリットあげ、デメリットを改善する方法を考察した結果を発表しました。

発表会の後に実施したアンケート調査には、「原稿を覚えて、目配りをしながら話すと、聞く人にとって印象がよいことがわかった」や「ポスターに書いていないことでも、質疑応答でより詳しく説明している班があり、すごいと思った。」「見てきたものを説明するだけでなく、自分たちが感じた疑問を調べ、発表している班もあってよかった」などがありました。このたびまとめたポスターを使って、第5回山口県立下関西高等学校探究学習生徒研究発表会でも発表します。これからもしっかり練習し、よりよい発表を目指しましょう。

表1 1年5組のグループが発表したテーマ

グループ	テーマ	訪問した施設
A1	なぜ外国はクジラにホエールのか?	下関市立考古博物館
A2	人骨はなぜ残った?!	土井ヶ浜跡・人類学ミュージアム
B1	水生哺乳類は再び大地を踏むことはできるのか	国立研究開発法人水産研究・教育機構水産大学校
B2	飢餓0～昆虫食の利用～	豊田ホテルの里ミュージアム
C1	炭素のCクレットに迫る	UBE株式会社
C2	世界を救うのは草、草だった	ときわミュージアム 世界を旅する植物園
D1	人類と毛～毛にも歴史がある～	北九州市立いのちのたび博物館
D2	工事現場で働くロボット	北九州産業学術推進機構 (ひびきのキャンパス)

表2 1年6組のグループが発表したテーマ

グループ	テーマ	訪問した施設
A3	古き時代の英雄	土井ヶ浜跡・人類学ミュージアム
A4	ユニバーサルな博物館を目指して	下関市立考古博物館
B3	フグとSDGs	国立研究開発法人水産研究・教育機構水産大学校
B4	虫から学ぶ多様性	豊田ホテルの里ミュージアム
C3	サボテンのみりよく!	ときわミュージアム 世界を旅する植物園
C4	UBEな世界へ!!	UBE株式会社
D3	恐竜から学ぶ! 絶滅から逃れよ!!	北九州市立いのちのたび博物館
D4	バスの自動運転は必要?	北九州産業学術推進機構 (ひびきのキャンパス)



水生哺乳類が再び陸上で生活できるのか探究したB1班



石炭化学や石油化学についてまとめた結果を発表するC1班



虫は耳や手足の位置が多様であることを発表するB4班



サボテンを保護する意義について発表するC3班

普通科

は普通科を、

探究科

は探究科を対象としたプログラムです。

論理国語の授業で、数学科とのユニットカリキュラムを実施しました。

探究科

探究科2年次の論理国語の授業において、数学科とのユニットカリキュラムを実施しました。10月11日(水)に探究科2年5組で、16日(月)に探究科2年6組で実施したこのたびの取組では、訪日外国人の人数や訪日外国人が日本で消費した金額が表やグラフに示された資料を基にして、インバウンド市場を活性化する方法を考えるものです。生徒は、様々な観点で示された資料の読み取りに戸惑っていましたが、数学の教員が「はじめからすべての資料を比較するのではなく、まずは一つの資料からデータを読み取って特徴を見だし、その特徴が次の資料とどのように関連しているのか、一つひとつ比較していくとよい」とアドバイスしました。生徒は、グループに分かれて改めて検討し、その結果を文章にまとめて発表することができました。近年の大学入試では、国語や英語においてもこのように複数の資料を比較しながら考察する問題が出題されています。普段から興味・関心をもって取り組んでいきましょう。



数学科の教員が資料を示しながら、多様な観点から読み取ることができることを説明する



資料を使って、インバウンド市場を活性化する方法を発表する

探究科の1年次生が、九州大学を訪問！

探究科

10月20日(金)に探究科の1年次生56人が、九州大学伊都キャンパスを訪問し、模擬講義の受講や実験施設の見学を行いました。

午前には、教育学部准教授 木下 寛子 先生による環境教育学に関わる模擬講義で、「環境という言葉をもとにどのように捉えたらよいのか」や、「一人ひとりがパーソナルスペースをもっており、これを越えてしまうと不快に感じてしまう」などを説明していただきました。演習も行われ、2人の生徒が少しずつ近づき、パーソナルスペースがどの程度であるか実際に確かめることができました。生徒は、横に並んで座っているときと、向かい合って近づくときでは、不快に感じる距離に違いがあることに気付くことができました。午後は、工学部教授 津守 不二夫 先生による模擬講義が行われ、機械を設計するときの手法の一つである生体模倣についてお話していただきました。磁性をもった金属と磁石を利用して、ムカデの足と同様の動きをする機械を示していただき、生徒は興味深く観察することができました。模擬講義の後には、工学部の実験施設の一つである風洞の見学に加え、津守研究室の大学生や大学院生とディスカッションの機会を設けていただき、大学での学びや生活について理解を深めることができました。

大学で1日間過ごしましたが、生徒は、広大で見渡すことが困難な九州大学伊都キャンパスの規模の大きさや、一つひとつの建物の高さに驚いていました。さらに、



学食を利用して、大学生活の一端を体験！

学食の利用など、大学生の日常を体験することもでき、有意義な訪問となりました。訪問した探究科の1年次生は、将来、こうしたキャンパスで学ぶことを想像しながら、九州大学を後にしました。



少しずつ近づきながら、パーソナルスペースを測定する生徒



生体模倣によりつくられた機械を観察する生徒



工学部の実験施設である風洞を見学する生徒



津守研究室の学生が大学生活を紹介

普通科

は普通科を、

探究科

は探究科を対象としたプログラムです。